

若年層の大麻乱用等に関する意識調査の結果からみた効果的な薬物乱用防止教育の検討

◆ 研究概要 ◆

- 鹿児島県薩摩川内市、さつま町のすべての「高校」、「短期大学」、「大学」の学生を対象として大麻乱用等に関するアンケート調査を行った。
- 大麻の「俗称」等に関する教育の必要性
約9割以上の学生が大麻の違法性を認知していたにもかかわらず、大麻とマリファナが同一物であることを認知していた学生は、約5割ほどであった。この結果から、薬物乱用防止教育を行う際には、薬物の「俗称」等に関する教育も行う必要があることが示唆された。
- 効果的な薬物乱用防止教育を行うための喫煙防止教育の重要性
喫煙経験者は、非喫煙経験者と比較して大麻乱用に対して何らかの興味を持つ可能性が、約4倍高くなることがわかった。この結果により、薬物乱用防止教育を行う際には、喫煙防止教育を併せて行うことが効果的であると考えられた。

◆ 背景 ◆

- ・ 大麻事犯の増加と高い構成比率を占める若年層
H22年2月に警察庁から発表された報告書によると、平成21年の大麻事犯の検挙件数、検挙人員とも過去最高を記録した。また、少年及び20歳代の若年層の構成比率は、大麻事犯全体の検挙人員の約6割を占めていた。このような背景から、今後、若年層に対する薬物乱用防止のための広報啓発活動を一層強化していくことが急務とされている。¹⁾
- ・ 大麻の使用方法
※ 乾燥大麻が詰められたタバコ³⁾
大麻乱用者は、大麻を乾燥させタバコ状にして吸煙している場合が多い。²⁾ タバコとブレンドして吸煙している場合もある。



◆ 研究目的 ◆

若年層に対して、大麻乱用等に関するアンケート調査を行い、効果的な薬物乱用防止教育のあり方を検討する。

◆ 調査対象及び方法 ◆

- (I) 調査対象
鹿児島県薩摩川内市、さつま町のすべての「高校」、「短期大学」、「大学」の学生を対象とした。

※ アンケート回答者の性別・年齢別 構成比

[性別]	[人]	[%]
男性	1905	51.9
女性	1756	47.8
回答なし	10	0.3

[年齢別]	[人]	[%]
15歳	602	16.4
16歳	1018	27.7
17歳	1041	28.4
18歳	528	14.4
19歳	206	5.6
20歳以上	272	7.4
回答なし	4	0.1

- 調査対象 : 4066名
- 有効回答数 : 3671名 (回答率 90.3%)

※ 薩摩川内市、さつま町の人口・面積 (H22.9.1現在)

	[薩摩川内市]	[さつま町]	[鹿児島県全体]
人口 [人]	99062	24048	1704037
面積 [km ²]	683.5	303.43	9044.34

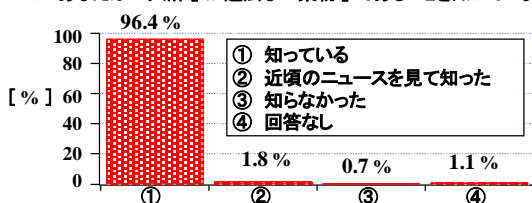
- (II) 調査時期
平成21年8月1日～平成21年9月31日

- (III) 調査内容
・「喫煙歴」
・「大麻に対する認知度」
・「大麻乱用に対する意識」 等

- (IV) 調査方法
・無記名自記式アンケート(選択式)
・留置調査法

◆ 大麻の違法性認知度 ◆

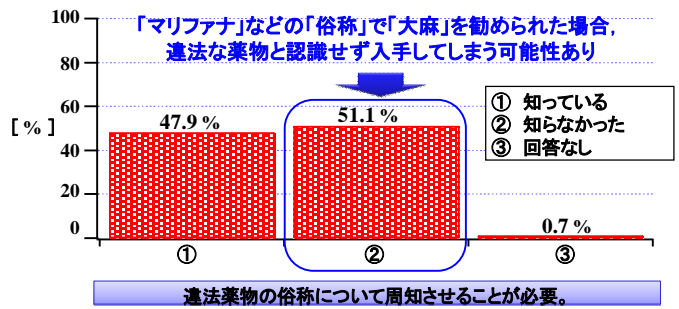
Q: あなたは「大麻」が違法な「薬物」であることを知っていますか?



9割以上の学生が、大麻の違法性を認知している

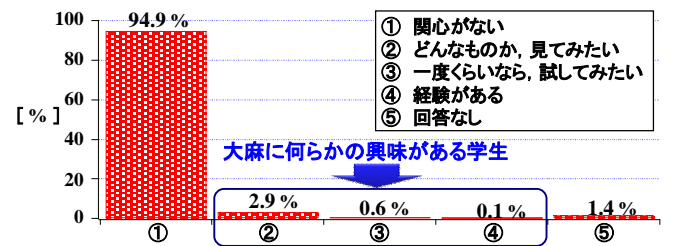
◆ 「大麻」と「マリファナ」が同一物であることの認知度 ◆

Q: あなたは「大麻」と「マリファナ」が同じものであることを知っていますか?



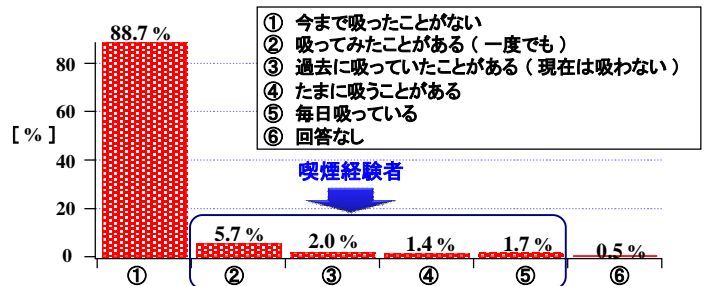
◆ 大麻乱用に対する興味 ◆

Q: 「大麻」を吸うことについて、あなたのもっとも近い気持ちはどれですか?

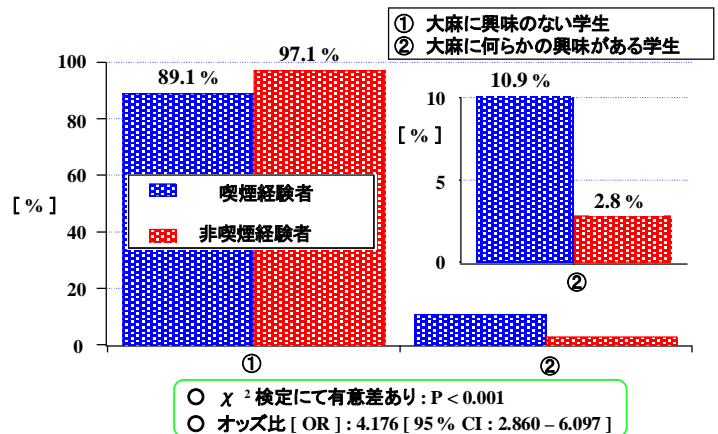


◆ 喫煙経験 ◆

Q: あなたは、「タバコ」を吸いますか?



◆ 「大麻乱用への興味の有無」と「喫煙経験の有無」の関連性 ◆



喫煙経験者は、非喫煙経験者に比べて、大麻乱用防止に対する規範意識が低い。

◆ まとめ ◆

- 若年層の大麻乱用を未然に防ぐためには・・・まず喫煙をさせないことが重要である。
- 今後、薬物乱用防止教育を行う際には・・・併せて喫煙防止教育や薬物の俗称の教育についても積極的に行っていくことが効果的である。

◆ 参考文献 ◆

- 1) 警察庁. 平成21年中の薬物・銃器情勢. 2010; 6-8
- 2) 大島 徹, 高安 達典. 薬物濫用と法医学的取り組み. 大学教育センター開放紀要 第17号. 1987; 93-94
- 3) 鹿児島県薬物乱用対策推進地方本部. 薬物乱用防止の手引. 2000; 29